

令和6年度宮崎県公私立高等学校連絡協議会議事概要

1 日時

令和6年6月5日（水） 午前10時から午前11時

2 場所

防災庁舎 72号室

3 出席委員（8名）

藤井委員、黒木委員、鬼束委員、濱砂委員、
後藤委員、土肥委員、間曾委員、堀委員

4 議題

令和7年度高等学校進学者の収容対策について

・ 令和7年度定員調整案

＜県立学校＞

令和7年度の募集定員は、中学校卒業予定者の概ね7割とする。

＜私立学校＞

令和7年度の募集定員は、令和6年度の募集定員の範囲内とする。

※ 定員調整については、公私双方の役割を尊重しつつ少子化等の社会情勢の変化を踏まえ、進学における子どもの選択肢の幅を拡げることや、地域における学校の存在の重要性などを勘案し、公私の意見交換を行う。

5 内容及び審議結果等

(1) 主な質疑等

・ 定員調整案としては、特に異論はなし。

(2) 主な意見等

・ 県立の自己推薦がスタートして3年目となる。子どもへの幅広い学びの選択肢の提供という面から、一定の成果が出ているものと思われるが、一方では学習意欲や学力低下に繋がっているのではないか。

→ 自己推薦入試を導入後、推薦入試の受験者は増加している。中学校に実施したアンケートでは、推薦入試は妥当だという意見が多い。県立学校に入学した新入生の8割がその学校を選択したことに肯定的な報告が出ている。

・ 県立の二次募集について、学びの選択肢の確保という側面の一方、私立学校側からすると、入学者数の変動が発生し、クラス編成に支障を来す問題が生じている。定員の設定や私立学校に配慮した調整を行う事が可能か。

→ 二次募集は生徒の進路希望に応える意味でも必要と思っており調整を行うことは考えていない。令和3年3月に高等学校教育整備基本方針を策定し、令和10年度までの計画を立てており、計画に沿って学級数の見直しを行っている。

- 不登校の生徒が増加する中、県外資本の通信制高校に生徒が通学するケースが増えている。通信制高校の実態を県ほどの程度把握しているか。
 - 県立高校にある2校の通信制については把握している。通信制を選択する生徒が増えており、県外の私立高校や高専に行く生徒もいる。また、県外に拠点のある広域性の通信制に通う生徒もいると聞いている。本県の場合、県外のサテライト形式の通信制に行くことはある。

- 宮崎県公私立高等学校連絡協議会の在り方については、時代の状況の変化とともに変わっていく必要があるのではないか。
 - 高校教育の課題は他にもたくさんあるので、様々な課題に関して公私の意見を交換する場があるのはよい。

- 私立と公立の連携の仕方などについて議論を進めていける体制が十分でなかったという反省があった。来年度に向けて、そのような場を設けていきたい。

今後の高等学校教育をどうしていくのかを、公立と私立と一緒に考えていく機会を利用して議論を進めていければと思う。